

## 地方出版社、東京を攻める

### 「大手にできない」ニッチな特集に活路



「目で見ると新宿区の100年」の  
写真パネルを並べる書店員＝東京  
・新宿の紀伊国屋書店新宿本店

#### ■地方出版社が試みる多角化の例

- ・長崎文献社（長崎市） 観光地の魅力を生かし古地図のポスターや絵はがきなどを販売。「軍艦島」の世界遺産登録などで売り上げも上がっている。
- ・梓書院（福岡市） 会社や学校からの依頼を受けパンフレットや記念誌を作成し電子化して提供。漫画家を登録し、パンフの漫画化も行う。
- ・北海道デジタル出版推進協会 2013年に道内の出版社やシステム会社が集まり発足。これまでに約450作を電子化し、道内外の4図書館に販売。一部は一般売りも実施。地域の歴史資料の電子化も実施予定。

制作の中心を担うのは、岡山県の登山家・守屋益男さん（79）。県内の山を實際に調べ、いくつもある登山道を丹念にかき込んだ詳細図を07年に発売した。

高尾山の地図をつくらうと思ったのは、登山仲間から聞いた登山客の多さに驚いたからだ。八王子観光協会によると、ゴールデンウィークなどのハイシーズンは、1日2万5千人超が訪れる。

「道に迷って困る人もたかく

紀伊国屋書店新宿本店の西根徹・本店長は「『新宿』と名のつく歴史ものは、ありそうではなかった。狭いエリアも実施したという。」

都内は豊島区や渋谷区、港区など41タイトルに達し、地元長野県に次いで多い。神津良子代表は「本を置いてくれる書店は減り、読者も

岡山市の吉備人出版は11年から、東京・八王子などに連なる山々の登山地図「高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図」（税込み823円）を発売した。初版1万部はすぐに売切れ、これまでに3万5千部を発行。首都圏を中心に

丹沢や東丹沢、東京の奥多摩東部など、関東各地の登山地にも相次いで発売。計5種類で発行部数は10万部に上る。山川隆之代表は「今では、首都圏ものの登山地図が、全体の売上げの4分の1から3分の1を占めている」という。

東京都新宿区などにある約50の書店で先月、記録集「目で見ると新宿区の100年」が店頭に並んだ。長野県松本市の郷土出版社が発行した。224ページに明治以降の写真約350点を掲載し、9990円（税込み）と高価だ。

アを対象にした高額な本は、大手では手を出せない」。発売週の同店の単行本ランキングでは6位に。「地方出版社の本がベスト10に入るのは極めて珍しい」（同店）という。

高尾山登山家の手弁当

「地域市場の縮小で、地元だけでは採算に見合う企画がなくなっている。東京という穴場」に目を付けた企画が受けているのだ」と分析。「どの地方も個性が失われていく。各地で新たな価値を再創造して、地元での市場も掘り起こして欲しい」と話す。（塩原賢）

## 9990円 予約好調、店頭へ

## 長野発「新宿区の100年」

## 岡山発「高尾山詳細図」

## 地元登山家が手弁当

東京23区などの歴史本や、東京近郊のきめ細かな登山ガイド……。首都圏のニッチな（他社が進出していない）分野に目を付けた出版物で、地方出版社が大都市市場に売り込みをかけている。街の書店が減り、地域の個性も薄れてきたことから出版不況の荒波をものにかぶる中、独自の営業戦略を駆使し、大市場で生き残りをかける。

成功を収めた裏には、周到な販売戦略もある。特集する対象地域では、書店組合の会合で企画を説明し、発売前には新聞に折り込み広告を複数回、入れる。受け付け開始後は書店と密に連絡を取って予約状況を確認する。地元で培ってきた手法を東京でも生かしたという。

多くの地方出版社は厳しい経営環境にある。地方・小出版流通センターの川上賢一代表取締役は「地方出版社の半数近くは在庫をさばっているだけで休眠状態だ」とみる。「地域市場の縮小で、地元だけでは採算に見合う企画がなくなっている。東京という穴場」に目を付けた企画が受けているのだ」と分析。「どの地方も個性が失われていく。各地で新たな価値を再創造して、地元での市場も掘り起こして欲しい」と話す。（塩原賢）

平成27年10月7日(水)  
朝日新聞